

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報
2010. 10. 14 No. 7
北海道ボランティア・レンジャー協会

雪虫ってなあに？



【ユキムシ】トドネオオワタムシ【学名】Prociphilus oriens
【分類】カメムシ目 (hemiptera), アブラムシ科 (Aphididae)
【分布】北海道～本州、シベリア【大きさ】最大長さ4mm

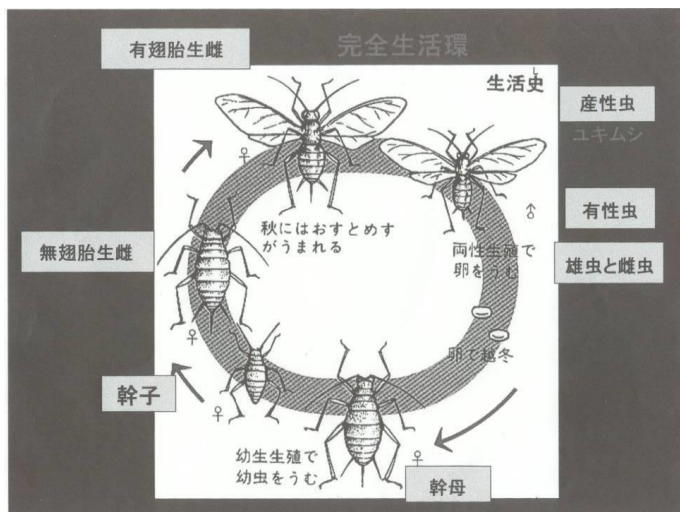
白腺物質を分泌する腺が存在するものの俗称。体全体が綿で包まれたようになる。雪虫という呼び方は主に北国での呼び名で、他に、綿虫・オオワタ・シーラッコ・シロコババ・オナツコジョロ・オユキコジョロ・ユキンコ・シロバンバ

その頃と、言っても大正4、5年のこと（一部略）だが、夕方になると、決まって村の子供たちは口々に「しろばんば、しろばんば」と叫びながら家の前の街道をあっちに走ったり、こっちに走ったりしながら、夕闇のたちこめ始めた空間を綿屑でも舞っているように浮遊している白い生き物を追いかけて遊んだ。素手でそれを掴み取ろうとして飛び上がったり、ひばの小枝を折ったものを手にして、その葉にしろばんばを引っ掛けようとして、その小枝を空中に振り廻したりした。しろばんばというのは「白い老婆」ということなのであろう。子供たちはそれがどこからやって来るか知らなかったが、夕方になると、それがどこからともなく現れてくることを、さして不審にも思っていなかった。

夕方が来るからしろばんばが出てくるのか、しろばんばが現れてくるので夕方になるのか、そうしたことははっきりとしていなかった。しろばんばは、真っ白というより、ごく微かだが青味を帯んでいた。そして明るいうちは、ただ白く見えたが、夕闇が深くなるにつれて、それは青味を帯んて来るように思えた。...

これは、井上靖の長編「しろばんば」の冒頭の一説です。しろばんばとは白い老婆のことです。本州の一部地方では「雪虫」をそのように呼ぶとのこと。

北海道ではユキムシ、雪虫の名で親しまれているこの虫は、正式名＝トドネオオワタムシというのですが、昆虫類有翅目アブラムシの仲間の昆虫で、北海道には10数種いるようです。彼らはアブラムシが植物の液汁を吸って生活するように、春と夏とで、寄生する植物を変えながら、樹液を吸って行きている生物。詳しく書くと、春にはヤチダモ類の葉裏で生活し、5月上旬頃に成熟した基母が処女生殖によりまた多数の♀を生むのです。またその♀も早熟多産で、次々に処女生殖を重ね、生まれた子虫は、数日間の蛹後、翅を持った成虫になり（これが第二世代）、この第二世代が7月頃にトドマツに移動し、卵を産み、夏の間はこのトドマツの根（トドネ）で、アリと共に生活しながら、第三世代の子虫＝♀を産卵。このトドマツで育った成虫が綿をつけてユキムシになるのです。つまり、この虫は皆、♀。そしてこの♀が、再びトドマツの木からヤチダモの木に移り（この飛ぶ様を私たちは見ている）緑色と、オレンジ色の子虫を生むのですが、ここでの緑色の子虫が初めての♂。で、この緑の♂の子虫は餌を取る口も持たないで、寿命はたった1週間ほど。そしてその間に♀がこの♂と交尾し、越冬する1個の卵を残し、死亡し、一年を終える。北海道ではこの雪虫が飛ぶと初雪が降ると言われています。それは温度変化を感じていること+日の長さの変化、また雪虫の餌であるトドマツの養分が変化することが理由と考えられています。雪虫が飛ぶ日＝お天気が良い日。それは晩春の天気の場合、降雪日の前日や、2日前が最も天気が良く、暖かくなると言われているから、飛ぶ日は初雪間近というわけらしい。なお、ユキムシの白く見える部分はロウのような物質で、ユキムシが地面に居る時に、土や水分から身を守るためと、空を飛ぶ時にふわふわ漂いやすくするためにあると言われています。しかし、これは、繰り返しますが、アブラムシの仲間。飛ぶ姿は天使のようだが、実は害虫。でも、年々その数は減少気味になっている。初雪が降る、数週間前にヤチダモに一斉に引っ越しする雪虫（ユキムシ、トドネオオワタムシ）達風景＝北国ならではのものです。



この図はアブラムシの完全生活環を表した図です。

トドネオオワタムシは完全生活環の部類に入ります。

アイヌ語でウパシキキリ。その意味は(ウパシ=雪、キキリ=虫)。

アブラムシの生活環は複雑で、産卵雌虫、雄虫、胎生雌虫など多数の生活型(モルフ)が出現する。産卵雌虫と雄虫が出現し、卵で越冬する世代を両生(有性)世代、胎生雌虫のまま単為生殖を繰り返す世代を無性(単為生殖)世代と呼び、有性世代と無性世代の両方をもつ生活環を完全生活環、無性世代のみからなる生活環を不完全生活環と呼んでいます。

完全生活環は気温7℃以下に下がる地域に、7℃以上14℃以下の地域には完全生活環のアブラムシと不完全生活環のアブラムシがあり、14℃以上の地域では不完全生活環のアブラムシとなるそうです。

歌や小説に出てくる雪虫

DREAMS COME TRUE おやすみのうた LYRICS.

雪虫と踊ろう 白い花の到着 待って夜は 火の番をするからね 咳を鎮めてくれるようにたくさん
の想いを込めて 魔法を歌おう。 La Do da Di, Do do De 目をつぶったら夢の中へ ベッドの気
球に乗って 飛んで黄金の ...

三浦綾子 氷点

雪虫がとぶころになった。啓造が函館から帰って、五日ほど過ぎた。北国では、雪の降る前になるときまって、乳色の小さな羽虫が飛ぶ。飛ぶというよりも、むしろ漂うような、はかなげな風情があって、人々は寒さを迎える前のきびしい構えが、ふっと崩されたような優しい心持になるのであった。中略

雪虫がひたと吸いよせられるように、啓造の合オーバーについた。うすいかすかな羽が透いて、合オーバーの茶がうつった。啓造は雪虫をソツとつまんだ。しかし雪虫は他愛なくペタペタと死んだ。それは一片の雪が、指に触れて溶けるような、あわあわしさであった。

(幸福とか、平和というのも、この雪虫のようなものだな)

雪虫飛来から初雪まで日数

エリア	昨年	一昨年
札幌	39日後	14日後
旭川	30日後	10日後
北見	31日後	3日後
函館	33日後	21日後
<平均>	34日後	17日後